

帝国主義と条約改正

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

大正

今日の問い

列強が世界に進出するなか、日本はどのようにして不平等条約を改正したのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 帝国主義の時代

列強の世界進出

ていこくしゅぎ
帝国主義

軍事力や経済力で、他地域を植民地にしようとする動き。

れっきよう
列強

強い軍事力・経済力を持ち、世界に進出した欧米の国々。

しょくみんち
植民地

列強が支配し、資源や市場として利用した地域。

19世紀後半、欧米の強国である**列強**は、軍事力や経済力でほかの地域を自分たちの市場や原料の供給地にしようとした。この動きを**帝国主義**という。列強は現地の人々の抵抗を武力でおさえながら、**アフリカ大陸**の大部分を植民地として分け合い、インドや東南アジアなど、アジアの各地にも支配を広げていった。

このころの日本は、幕末に結んだ不平等条約をまだ改正できていなかった。日本で罪をおかした外国人を、その国の領事が自国の法律で裁く**領事裁判権**が認められ、輸出品にかかる税の率を自分の国で決める**関税自主権**もなかった。条約の改正は、国の独立を守り、列強と対等な地位に立つための大きな目標だった。

2 条約改正の達成

陸奥宗光・小村寿太郎

ろくめいかん
鹿鳴館

欧化政策のもと、東京に建てられた洋風の社交場。

むつむねみつ
陸奥宗光

1894年、領事裁判権の撤廃に成功した外務大臣。

こむらじゅうたろう
小村寿太郎

1911年、関税自主権の回復に成功した外務大臣。

政府は欧化政策を進め、東京に**鹿鳴館**を建てて舞踏会を開くなど、欧米風の生活をまねて見せることで、列強に対等な国だと認めてもらおうとした。しかし1886年の**ノルマントン号事件**で、イギリス人船長らがボートで逃げて日本人乗客が全員おぼれ死んだのに、領事裁判で船長は軽い罰ですんだ。このため、条約改正を求める声が国内で大きく高まった。

1894年、外務大臣の**陸奥宗光**は**日英通商航海条約**を結び、**領事裁判権**の撤廃に成功した。さらに1911年、外務大臣の**小村寿太郎**がアメリカなどとの条約を改正し、**関税自主権**の回復を実現した。こうして幕末に結んだ不平等条約の改正が達成され、日本は条約の上で列強と対等な立場に立った。

年	条約改正の歩み
1883年	東京に 鹿鳴館 を建てる
1894年	陸奥宗光 が領事裁判権を撤廃
1911年	小村寿太郎 が関税自主権を回復

問いへの答え

欧米の列強が世界各地を植民地にする帝国主義の時代、日本は不平等条約の改正を国の大きな目標とした。政府は鹿鳴館を建てるなどの欧化政策を進め、ノルマントン号事件で改正を求める国民の声も高まった。1894年に陸奥宗光が領事裁判権の撤廃に成功し、1911年に小村寿太郎が関税自主権を回復して、条約改正は達成された。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

